



京都工業会 ニュース

基本理念 -21世紀を担うモノづくり集団-
京都からモノづくりイノベーション

新春号 2025 No.421

2025年 新年ご挨拶 2~6

会長	村尾修
副会長	武田一平
副会長	垣内永次
副会長	上田輝久
副会長	山田義仁
副会長	松下芳弘
副会長	錦織隆
副会長	片岡宏
副会長	瀬川晋弘



会員企業トップにインタビュー〈39〉日東薬品工業ホールディングス株式会社 7

「腸内細菌研究と医薬品開発で、世界の常識を変える創薬を目指す！」

第39回目は、日東薬品工業ホールディングス株式会社（向日市）を訪問。

「人の命を救う薬を作りたい」という強い思いのもと、腸内細菌を利用したバイオ創薬の実現をめざす北尾浩平代表取締役社長にお話を伺いました。

◀ 北尾浩平代表取締役社長

白鷺クラブ 2024フィリピン産業視察団 報告...8~11

3年に一度の実施がコロナ禍で中断し、白鷺クラブとして6年ぶりの海外産業視察団派遣となりました。

今回は、今後アジア圏で高い成長が期待され、また若くて英語力の高い人材が豊富なことや工業団地が多いことなどから日系企業の進出も進んでいるフィリピンを訪問、現地日系企業等を視察しました。

外国人材採用に向けた送り出し現場の視察研修... 12~13

人材確保が課題となる中で、若く優秀な社員の確保に向けて、海外の大学等高等教育機関で学ぶ学生採用を検討している企業を対象に、現地を訪問し現状を知る視察研修を開催。

高等教育機関・現地の人材送り出し機関・現地工場等を視察しました。

事業活動報告

- モノづくり超基本勉強会..... 14
- 脱炭素に向けた取組支援セミナー..... 14
- 品質保証懇話会..... 15
- R&D問題懇話会 15
- 業務革新研究会..... 16
- 購買調達革新研究会/生産管理（TOC）研究会
- 産学連携によるイノベーション推進講座 2024... 16
- 京都工業クラブ..... 17

- 「2024年アメリカ大統領選挙と国際情勢～日本への影響～」
- 「これからの日本の半導体産業」
- 「2025年に向けた世界経済展望」

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～

(その⑦)

(株)京都科学..... 18~19

令和5年度会員意見調査によると、『当面の経営課題』として多くの企業が「人材不足への対応」を一番に挙げられました。今回も引き続き社員の確保と定着に欠かせない要素の一つである“魅力ある職場づくり”をテーマに取り上げ、ご紹介いたします。

ゴルフ同好会 (KIG) 活動報告 19

- 京都府産業功労者表彰ご受賞..... 20
- 京都中小企業技術顕彰優秀技術賞ご受賞..... 20
- 新入会員ご紹介..... 20



2025年 年頭所感

会長 村尾 修

新年明けましておめでとうございます。会員の皆さまにおかれましては、心安らぐ新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2024年も多くの変化と挑戦の年でした。停滞していた社会や経済の活力が徐々に回復し、各産業で新たな動きが見られる中、地政学的リスクの高まりやインフレ、エネルギー、資材価格の高騰が製造業にとって大きな負担となりました。また、供給網の見直しや事業の効率化といった経営課題に直面する企業も多く、さらには人材不足や賃上げへの対応が深刻な課題となっています。

一方で、技術革新は着実に進んでおり、生成AIやDXへの対応が企業競争力を左右し、カーボンニュートラル達成への取組も、もはや待ったなしの課題となっています。特に京都企業におきましては、高付加価値製品への転換やスタートアップ企業との連携など、新たな取組が進む兆しも見られています。企業の皆さまがこのような複雑な環境において懸命に努力される中、経営革新や生産性向上に向けた着実で息の長い施策が求められており、経済団体や行政が連携して企業を支援する体制のさらなる強化が必要ではないかと感じています。

2025年4月には、大阪・関西万博がいよいよ開幕します。今回の万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、未来に向けた技術やビジョンを世界へ発信する場となることでしょう。関西経済圏の活性化においても、その効果は非常に大きく、地域全体が一丸となって取り組むことで、新たな価値創造や産業振興が期待されます。

京都工業会としても、この万博の成功に向けて全力で支援を続けます。会員企業の皆さまには、技術展示や協

力プロジェクトを通じて、自社の強みを広く発信し、新たなパートナーシップやビジネスチャンスを開いていただきたいと考えております。さらに、万博を契機として、次世代エネルギー技術の導入や観光資源の最大活用、地域製品のPR強化が進むことで、関西全体の持続的成長へとつながるはずです。この万博はまた、若い世代に夢と希望を与える場であり、会員企業の皆さまには、未来を担う人材の育成を念頭に置いた活動にもぜひ力を注いでいただければ幸いです。

2025年は「乙巳（きのと・み）」の年にあたります。「乙（きのと）」は成長の萌芽を、「巳（み）」は熟成や結実を象徴します。この干支の組み合わせは、昨年培った努力が具体的な成果として結実することを表すとされています。

京都工業会としても、多様性を尊重しながら持続可能な社会の実現に向けて歩みを進める中で、特にイノベーション創出やカーボンニュートラル推進のための技術開発、人材育成に注力し、業界全体の発展に寄与する取組をさらに強化してまいります。

また、女性や若手人材の活躍を促進するための施策にも積極的に取り組み、多様な視点やアイデアを経営に取り入れることが、今後の競争力向上に不可欠であると信じております。たとえば、ダイバーシティ経営に基づいた研修やネットワーキングイベントを通じて、性別や国籍を問わず多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境を整えてまいります。このような取組が、イノベーションの源泉となり、業界全体の発展を加速させることでしょう。

結びに、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 会長



年 頭 所 感

副会長 武田 一平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は1月1日に石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生し多くの方が被災されました。地震発生から一年の月日が流れた今も一部のインフラは十分な整備が行き届いておらず、一日でも早く健やかな生活と心穏やかな日常が訪れることを切に願っております。京都においてもゲリラ豪雨の発生や記録的な猛暑が続き自然の厳しさを痛感させられる夏となりました。

一方で海外に目を向けますと、7月にパリ五輪が開幕し「広く開かれた大会」というスローガンの下、世界のあらゆる国と地域から参加した選手たちの活躍は強く胸を打つものでしたが、それとは裏腹に世界情勢は米中対立に起因するデカップリングの様相を見せており、既に関税の引き上げなどの具体的な措置が取られています。昨年11月に行われたアメリカ大統領選ではトランプ氏が再選、上下両院で共和党が過半数の議席を獲得し、ウクライナや中東での紛争等不安定な国際情勢の中で新たな局面を迎えており、今後の動向が注視されます。

さて、当工業会の皆様におかれましては、わが国の歴

史と文化の中心地である京都で育まれた多種多様な伝統技術をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業され発展させてこられました。様々な変化が起こる中で、今後とも互いの強みや知恵を活かし、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開に繋がればと願うところです。

当社は、情報通信や車載などあらゆる電子機器に搭載されるアルミ電解コンデンサをはじめ、「カーボンニュートラル」というメガトレンドを支える、EV用急速充電器、V2Hシステム、xEV向けフィルムコンデンサや各種蓄電システムをラインアップし、サステナブルな社会の実現に向けて明るい未来社会づくりに貢献させていただいております。

このような企業活動を展開していく上でも、当工業会の活動方針に沿った産学公の連携をさらに深めていきたいと考えています。引き続き関係各位のご協力をご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

京都工業会会員皆様にとって明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

(ニチコン(株) 会長)



2025年 年頭所感

副会長 垣内 永次

新春のお慶びを申し上げます。

2024年は「選挙イヤー」と昨年の年頭所感で申し上げましたが、まさに多くの国で政権与党が変わるという状況が起きました。日本でも少数与党政権となり、韓国でも大統領の弾劾が可決される事態が発出しました。

米国の大統領選では、トランプ氏の2期目の大統領就任が決まり、就任前からすでにさまざまな動きが始まっています。経済の低迷が続くドイツの首相が不信任となり、フランスの国民議会では内閣の不信任決議案が可決されるなど、軒並み政権与党の交代や弱体化が起こっています。

ロシアによるウクライナ侵攻は3年目に差しかかるうとしており、欧州全体の安全保障は緊迫した状況が継続しています。加えて中近東でも、イスラエル周辺の悲惨な戦禍が継続するなかで、シリア政権の崩壊が突如と言える程の短期間に起こるなど、世界政治の潮流に大きな変化が起きていると感じる年末となりました。

一連の国内外の選挙では、SNSによる選挙活動が大きな影響力を持つに到り、リアルとフェイクが判別しきれない事態が生じました。従来からの「オールドメディア」が国民の投票行動や意識を把握しきれない状況となったのは、メディアの怠慢だけではないと思います。

これは、経済界で避けて通れない課題となったAIにも通じる場所があります。AIの活用によってさまざ

まな業務が効率化されるのは、現実の経験として成立しつつありますが、AIが差し出す情報が常に正しいとも限りません。一方でAIが持つ潜在的な実現可能性の大きさにより、利用の仕方や、将来の拡張性について、懸念も生じます。我々メーカーが長年培ってきた技術の独自性や競争力を、他社がAIを駆使することによって、追い抜いて行く可能性を否定できないかもしれません。「破壊的イノベーション」は異分野から意図せず起こって来るケースもあったものの、AIが「破壊的イノベーション」を意図的に作れる時代が訪れるかもしれません。

2025年は、リアルとフェイクに惑わされた「人々」が、その不安や不安定さを増幅させていくかもしれません。結果として、国際政治では混乱が起こり、不安定な国際協調や覚悟のない政治によって、経済の世界にも少なからずの動揺が生じると思われます。

モノづくりを生業にする我々は、目の前のリアルを直視し、地道に付加価値の高い、換言すれば、高く売れる製品・商品・サービスを作ることに猛進するのは勿論のことながら、個人の感性や知性を研ぎ澄まし、見極めることが、尚一層求められる一年になりそうな気がします。

京都工業会のさまざまな勉強の出来る「場」を通して、会員相互に切磋琢磨して参りましょう。

(株SCREENホールディングス 会長)



年 頭 所 感

副会長 上田 輝久

新年明けましておめでとうございます。2025年の新春にあたり、皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2024年は元旦に能登半島地震、翌日に航空機事故が発生して多くの方が亡くなるという想定外の出来事により、大きな悲しみに満ちた1年の始まりになりました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災地の日も早い復興を祈念いたします。

温暖化に伴う自然災害は世界各地で数多く発生し、環境問題への取組は待ったなしであることを改めて痛感した1年でもありました。2024年の世界平均気温は過去最高になる見通しで、日本でも40℃を超える地域が増える中、世界では50℃を超える都市も出ています。温暖化による影響は、台風や集中豪雨などの異常気象による災害の頻発、農作物などへの影響や生態系の変化など多岐に渡っており、世界各国が協力して取り組む必要がありますが、昨年11月に開催されたCOP 29の結果を見る限り、課題が残る状態が継続しています。

一方、明るいニュースとしては、100年ぶりにパリで行われたオリンピック・パラリンピックで日本選手が大活躍したこと、特にオリンピックでは、金メダル20個を含む計45個のメダルを獲得し、金メダル数、メダル総数

ともに海外で開催された五輪では過去最多となったことがあります。また、大リーグでの大谷翔平選手の54-59の達成や2年連続3度目の満票MVPなど、世界で活躍する日本人選手に勇気づけられた年でもありました。この背景には、個人の努力に加えて、データに基づいたチーム力のレベルアップで目標達成に取り組む真摯な姿があり、その重要性を実感した1年でもありました。

2025年は米中対立やロシア・ウクライナ問題、中東の地政学リスクなどにより先が見通しにくい中、干支は「乙巳（きのと・み）」で、「乙」は「困難があっても紆余曲折しながら進む」こと、「巳」は蛇のイメージから「脱皮と成長」を意味することから、2025年は「困難を克服しながら更に進化する」年です。

日本が昭和から平成に移行したのも巳年の1989年で、平成の幕開けは戦後日本の転換点となり、新時代への脱皮を図った年でもありました。私達は新たな挑戦を積み重ねながら、困難を克服してきた歴史があります。京都工業会の皆様様の様々な知見を結集する「総合知」を活用して、温暖化対策や少子高齢化などの社会課題の解決に向けて新たな価値を創造していくこと、及び、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株島津製作所 会長)



年 頭 所 感

副会長 山田 義仁

新年明けましておめでとうございます。

会員企業の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は、パリ オリンピック・パラリンピックでの日本選手の輝かしい活躍やメジャーリーグ・大谷翔平選手のワールドシリーズ制覇・MVP獲得など、日本の若い人財が多くの感動をもたらしてくれた一年でした。また、日本では新紙幣の発行やAIの浸透など、日常生活に新たな息吹がもたらされる一方、ウクライナ情勢の長期化や世界経済の変動など、私たちの事業活動にも影響を及ぼす課題が顕在化した一年でもありました。さらに、アメリカ大統領選挙は世界全体に政治的・経済的な影響を与え、変化の時代に対応する重要性を改めて感じました。

昨年の京都工業会の活動を振り返ると、特に印象的だったのは京都工業会の海外産業視察となります。私も初めて参加し、アイスランドとフィンランドを訪問する

機会を得ました。両国が、明確な国家ビジョンのもと、国民と政府が一体となり、持続可能なエネルギー政策やデジタル技術を活用したイノベーションを進めている取組から多くの示唆を得ました。特に、地域資源を最大限に活かした発展のモデルは、私たちが地域社会の中でいかに持続可能な価値を生み出し、未来へと繋げていくべきかを考える上で、大きな気付きとなりました。

今年は、大阪・関西万博が開催されます。この世界的イベントは、関西地域全体が世界中から注目される絶好の機会であり、私たちも京都の魅力を広く発信することで、文化と産業の融合を図り、次世代に繋がる価値創造が期待されます。我々京都工業会としても引き続き、皆様とともに社会的課題の解決に向け、京都から世界へ、そして未来へとつながる新たな価値を創り出していきたいと思っております。そのためには会員企業の皆様方のご理解とご協力が不可欠であり、今年も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(オムロン(株) 会長)



年 頭 所 感

副会長 松下 芳弘

新年明けましておめでとうございます。2025年の新春を新たな気持ち、決意で迎えられたことと思います。

昨年は大きな地震、台風、豪雨といった自然災害に加え、記録的な猛暑といった気候変動もありました。また、世界各地での紛争、米中対立は継続し、さらに米国大統領の交代、日本では自公連立政権の過半数割れと今後、世界および日本の情勢、政治経済面の混迷が予想されます。このように変化が大きく、先行きの見通しが立てにくい状況下においては、環境変化を機敏に捉え、迅速に対応していくことが重要となり、バランス感覚と優先度が求められます。外部環境、市場・お客様の動向変化に対して、マイナス影響を最小限に留め、プラス影響を最大限取り込むことにより、会員各社様のサステナブル経営につなげていかれることを願っています。

また昨年は自動車メーカーでの型式指定をめぐる認証不正や製薬会社などでの不正や過失が相次いで発覚しました。ガバナンスの機能不全が指摘されていますが、コ

ンプライアンスは企業の基盤であり、これを毀損する会社は存続できません。これらの失敗を教訓として、自社内に不正、各種ハラスメント、コンプライアンスの潜在懸念がないか、チェックし、その芽を摘み取り、そして風通しの良い温かい職場環境をつくっていくことが肝要です。今一度、企業のあり方、仕事の基本に立ち返り、誠実に正道を歩んでいく必要があるように思います。

住友グループで連綿と引き継がれている「住友事業精神」の3つをご紹介します。「萬事入精」（ばんじにつせい）：何事に対しても誠心誠意を尽くす、「信用確實」：何より信用を重んじる、常に相手の信頼に応える、「不趨浮利」（ふすうふり）：道義にもとる不当な利益を戒める。日新電機では2023年、住友電工の完全子会社になったのを機に、住友事業精神の浸透をはかっています。

会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

（日新電機株 社長）



年 頭 所 感

副会長 錦織 隆

新年明けましておめでとうございます
ご家族揃いで 明るく 楽しい新年をお迎えになったこと
とお喜び申し上げます。

とは言え 世界中で嫌な出来事が頻発しています。
一方 良いことと言えば 日本原水爆被爆者団体協議会にノー
ベル平和賞が授与された事です。

世界平和の為の活動が評価されただけでなく 核保有国への警告
と理解しています。

世界中の人々が平和で安全で豊かに暮らせる様に皆で 知恵と
汗を結集しようではありませんか。

私事ですが昨年 体調を崩し 入院生活を一寸だけ経験しました。
ベッドの上で高校野球の自分の出身校の甲子園での試合を観
ながら 今後自分は何をすべきかを考えてみました。

高校生の頃にやりたいと思った事は何だったか。その事が今
実現できているか等々。

ベッドの上で 当時の 趣味を思い出しました。

その頃 始めた趣味は アマチュア無線でした。

外国の人達と 僅かな電力でコミュニケーションが出来ること
に 心を惹かれたのです。

外国語を駆使しなきゃいけないとか 電波、無線機の事を理解
しなきゃいけないとは思ってもいなくて 無謀にも実現しよう
と思い 一番ランクの低い資格を取得しました。

その頃の高校野球の放送は中波ラジオでガーガー ザーザーと
雑音の多い聴き難いものでした。

当時流行りの工学系学科は電子工学だったので 単純にその道
に進みました。

在学中にアマチュア無線の一つ上の資格を取り 自分で無線機
を作る為に秋葉原通いをしました。

今や 携帯電話で殆どの事が出来てしまいます。携帯電話（無
線+公衆回線）で世界中と話すことが出来ますし 翻訳もしてく
れる。Chat GPTでAIが 人に代わっている色々やってくれる。

熱心な研究者、開発者のお陰で 私の趣味は 今や 生活必需
品となりました。

でも 私は今でも趣味として 自分の声で 自分の無線機で世
界中の人達と一寸だけ交信を続けています。何が楽しいのかと言
われながら。

この世界もdigital化が進んでいて コンピューターを使って微弱
信号通信が可能になったり 音声でdigital技術で明瞭化したり、
Webを利用したりとか・・・

もう一つの趣味は登山です。大学在学中に 宇宙電波観測施設
で 夜間は先生の研究のお手伝い 日中は 隣接するスキー場で
スキーを楽しませて頂きました。

卒業後に 毎年1回は 3000m級の山に登ろうと思い 妻、子
供達を巻き込んで続けてきました。剣岳、北岳、槍ヶ岳、奥穂高
岳、白馬岳、白山、富士山・・・。

日本百名山は半分も登れていませんが 昨年8月には 妻との
思い出の立山（私達は途中まで）に家族で登って来ました。殆ど
車で行けてしまいますが・・・

都会生活は苦手な 泥んこ自然大好き人間になりました。

モノを作ったり、壊したりするのは好きでしたから 今後も続
けていくつもりです。

皆様の ご多幸を祈念して・・・

（㈱日進製作所 特別顧問）



年 頭 所 感

副会長 片岡 宏二

謹んで初春のお祝いを申し上げます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、2024年は、元旦に起こった石川県能登地方を震源とする震度7の地震、ならびに2日に羽田空港から被災地へ向かう海保機が滑走路上で日航の旅客機と衝突・炎上する痛ましい事故により日本列島を大きな驚きと悲しみで包み、幕を開けました。石川、富山、新潟、山形各県の広範囲が地震とそれに伴う津波により甚大な被害を受け、更に北陸地方を襲った9月の記録的集中豪雨により復興半ばの被災地は河川の氾濫や土砂崩れにみまわれ、現在も多くの方が厳しい環境の中で生活を続けておられます。一日も早く平穏な日常を取り戻される事を祈念してやみません。

また2024年は一昨年に引き続き、コンプライアンスを問われる年でもありました。政界では、政治献金問題による安倍派議員の摘発・逮捕により政権の中核が大きく揺らぎました。地方では、内部告発問題で不信任決議が可決された兵庫県知事の齋藤元彦氏が出直し選で再選を

果たしたものの、問題は山積したままです。その他、何と言っても消費者を一番驚かせたのは、小林製菓の紅麹サプリによる健康被害です。製品の自主回収後も、被害データを公表せず隠蔽を行うなど、悪質な企業体質を問われました。

近年では「モノづくりの国・日本」の看板の価値は徐々に下がり始め、2023年度の名目GDPはとうとうドイツに抜かれ4位に転落しました（日本の一人当たりGDPは世界32位）。昨年11月に行われた米国大統領選でトランプ氏が再選を果たしたことにより、世界経済にどのような影響を与えるのか、各国、各企業、固唾をのんで見守っている状況です。そのような中でも、私共京都工業会会員企業の皆様は、日本を代表するモノづくりメーカーばかりかと思えます。本年も京都工業会から世界へ、誠実でチャレンジングな日本のモノづくり精神を発信して行きたいと思えます。

結びにあたり、今年一年が安寧でありますこと、また、会員企業各社様の益々のご発展ならびに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(株)片岡製作所 会長



年 頭 所 感

副会長 瀬川 晋弘

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は元旦に発生した能登半島地震、続いて起こった航空機事故により波乱を予感させる年明けとなりました。夏は全国的に猛暑日が続き、秋には大雨による被害が発生し、地球温暖化の影響も含め自然災害に対する備えの重要性を改めて感じました。コロナは高齢者にはまだまだ感染に注意が必要ですが、観光面では大きな影響は無く、円安もあり海外からの来訪者は大幅に増加しました。一昨年まで製造業にとって大きな影響を及ぼした半導体、ハーネス、電子部品などの需給のひっ迫による長納期の問題が改善された一方、エネルギーコストの上昇、原材料価格、物流費の高騰による食品関係の値上がりは生活に大きく影響しました。10月に最低賃金が過去最大の上げ幅となり、賃上げの継続のためには更なる生産性の向上が求められる中、すさまじいスピードで発達している生成AIなどを駆使し業務の効率UPを図る必要があります。

世界に目を向けますと3年目に入ったウクライナ紛争は終わりの見えない状況ですがトランプ氏就任後の早期停戦に期待したいところです。一方、中東イスラエル、パキスタンの紛争は収束する気配が感じられない状況であり、又、ロシア、中国、北朝鮮の動向が懸念されます。スポーツ界はパリオリンピック、パラリンピックがコロナの制限なしに開催され大いに盛り上がりました。又、大リーグは日本人メジャーリーガーの活躍によりポストシーズン終了まで熱気に包まれました。

2025年令和7年は、「乙巳（きのとみ）」の年です。乙（きのと）は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また巳（み・へび）は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされており、そのため乙巳（きのとみ）の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。

「京都工業会」会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

(旭光精工(株) 社長)

■会員企業トップにインタビュー 〈39〉

腸内細菌研究と医薬品開発で、世界の常識を変える創薬を目指す!

日東薬品工業ホールディングス株式会社 プロフィール
 設立：2020年（日東薬品工業株、Noster株）
 資本金：4,800万円
 住所：京都府向日市上植野町南開35-3
 業種：生菌製剤をはじめとする医薬品の開発製造
 販売、腸内細菌とそれを利用したバイオ創薬の研究

日東薬品工業ホールディングス株式会社

代表取締役社長 北尾 浩平氏

一設立の経緯

ワクチンの製造と微生物を培養する会社を祖父が引き継いだことが、今の日東薬品工業(株)の礎となっています。その後、ワクチンや微生物だけでは稼げないということで、新たに医薬品の製造開発を始めました。



私はバイオ創薬を目指して2010年頃から腸内細菌の研究を続けてきましたが、ようやく目処がついてきたところでした。社長になる前はバイオ創薬事業だけをやりようと思っていたのですが、従来事業のカジ取りもすることになったため、それなら2つの事業によるシナジー効果を最大限引き出すために、既存事業を展開する会社に加え、バイオ部門を別会社（Noster株〔ノステル〕）として設立し、2社を束ねるホールディングスも設立しました。

一現在の取り組み

従来からの製薬事業は、当社にしかできない特徴を作ろうと考え、乳酸菌や酪酸菌などの生菌製剤に注力しています。国内で菌の培養から薬まで一貫して作れる会社は数社しかなく、そこにプライドをもっており、生菌製剤の分野においてシェア 90パーセント以上の獲得を目標に取り組んでいます。

一方、バイオ創薬は、日々様々な研究に取り組みながら、着実に歩みを進めています。腸内には100兆個から1千兆個の細菌が住み、その種類は1千種ぐらと言われてはいますが、実はまだその30パーセント程度しか解明されていません。人間は、栄養を自分の消化酵素を使って吸収しようと思っても 全部は分解できず、腸内細菌に分解させて、アミノ酸やビタミンなど様々な物質を腸内で合成しているのです。そこで、私たちは腸内にある食事由来の物質を変換させている細菌を利用した創薬の研究を進めています。

一京都に立地して

実務レベルでは、例えば、分析装置については島津製作所に相談に行くなど、京都企業同士のお付き合いを深めさせていただいています。また、私の場合、研究機器用の予備電源の選定に苦労していた時に、たまたま会合で出会ったGSユアサの村尾社長（当時）に相談したところ、すぐに動いていただき、希望どおりの予備電源を入手することができました。村尾社長には非常に感謝しております。

また、研究においては、京都は産学連携も活発ですので、これは使えるかもしれないというものが出てきた時、身

近にすぐ相談できる素晴らしい環境があることも有難いです。京都の企業は当たり前だと思っているかもしれませんが、東京の方には「羨ましい」とよく言われます。

一科学雑誌「サイエンス」との出会いを通して

ハーバード大学やクリーブランドクリニックをはじめとする海外の大学や研究機関・病院等と代謝物などの共同研究を行っています。こうした共同研究は世界的な学術誌「サイエンス」がきっかけです。

約7年前、私たちは自分たちの研究を知らせる方法を模索していました。当時、当社の進めていたバイオ創薬研究は社内外で認められておらず、苦しい状況でした。その頃、別のジャーナル記事を通じて私たちのことを知った「サイエンス」の国際連携担当者からコンタクトがありました。アカデミアでも企業でも腸内細菌の研究は行われていましたが、その代謝物に基づく創薬研究を行っている機関や企業はありませんでした。当社の独自の状況を説明したところ、彼らは関心を示し、これが我々の関係の始まりとなりました。それ以来、サイエンス本部からも毎年訪問があり、研究とビジネスの進捗を共有しています。

また、さまざまな研究者とのつながりを築くために賞を設立することを勧められました。これにより、日本企業として初めてサイエンス賞の共同スポンサーとして、「サイエンス」を発行する米国科学振興協会と共同で「マイクロバイーム・プライズ」を設立しました。この賞は、腸内細菌を研究している世界中の若手研究者を支援するための制度です。現在5年目を迎えましたが、先ほど述べた共同研究者は皆、この賞の受賞者や関係者です。

ノステルの研究が順調に進んでいるのはサイエンスとのコラボレーションのお陰と感謝しています。



一今後の抱負

私のやるべきこと、夢は1つしか無く、「患者さんを救う、人の命を救う薬を作りたい」ということです。これが目標の全てであり、私のライフワークだと思っています。

これだけは社長のわがままだと言っており、世界を圧倒する「バイオ創薬」を実現するという強い思いは、当社の社員にもしっかりと伝わっていると思います。

そしてまた、現在はバイオ創薬に最も注力していますが、人の命を守るという意味においては薬だけでなく、解析サービス、原料供給（医薬品、化粧品、食品等）、サプリメント開発など、様々なアプローチがあるので、総合的なヘルスケアカンパニーとして地球規模での展開を目指しています。

白鷺クラブ2024 フィリピン産業視察団 報告

2024 フィリピン産業視察を終えて

団長 山本 光



11月13～16日まで4日間の日程で、今後アジアでの著しい成長が期待され、取引が少なくメンバーが訪れたことがない国、フィリピンの産業視察に総勢10名で行ってきました。

1～2日目はマニラにて日本大使館表敬訪問、企業視察、3日目セブ市にて貿易産業省 (DTI)・投資委員会 (BOI)・セブ日本領事館 総領事・アポイティスインフラキャピタル社の方々とビジネスランチ、大学及び企業の視察を行い4日目早朝の便でマニラ乗継で関空に帰ってきました。

フィリピンは約7,000の島々から成り、面積は日本のほぼ8割で人口は約1億1,500万人と、ほぼ日本と同じです。2023年のGDPの統計では、タイ (1.9%) マレーシア (3.7%) インドネシア (5.1%) ベトナム (5.1%) の中、フィリピンは5.6%と近隣国を上まわり、今後の成長が期待される国です。また、現在、在日フィリピン人の方が約30万人おられ日本とは密接な関係にあります。

初日に日本大使館で受けた説明では、現在日本企業が約1,600社進出し、コロナ禍以降では、人口ボーナスが続くことを見越してか小売・サービス業 (ユニクロ、ニトリ、ダイソー等) の進出が多いとのことでした。確かにフィリピンの産業構成の割合として、サービス業60%、製造業30%、農業10%とあり、フィリピン人の消費意欲は強く、月2回に分けての給料支給という所にも

サービス業が盛んなのも頷けます。給料が入るとすぐに使ってしまうようです。

製造業は30%で、多くは輸入してきた材料を自国で組み立て、その出来上がった製品をほぼ輸出している状態で、これを成り立たせているのが人件費の安さという構図でした。

進出しようとする企業側としては、法制度の不安定さ、材料等現地調達の高コスト、非効率な物流・インフラ、管理職や理系人材の不足、高い電気代等の現実を見ると難しさを感じました。空港からマニラ大聖堂に向かうまでの海岸沿いに華僑の資産家が多数の高層マンションを建て、フィリピン国内の大資産家が高速道路などのインフラに対しても投資している状況にあっても治安が悪化していると聞き、今後、法整備や運用が計画通りに出来るのか不安を感じました。

しかし、これらをカバーするメリットとして人件費の安さ・豊富な労働力、高い英語力、良好な対日輸出入のアクセスとして成田からマニラまで4時間半、ASEANの主要都市へのアクセスも良い、工業団地の選択肢が多い等の魅力がありました。また、本当ですか?と思いましたが、セブの日本総領事から聞いたのですが、フィリピン人は視力が6.0あるらしく精密機械製造にはいいのでは?とっておられました。

結びにあたり、今回の視察に当たり尽力いただきました訪問先企業、各関係機関の皆様にご挨拶すると共に、ご参加いただきました団員の皆様にも厚く感謝の御礼を申し上げます。報告とさせていただきます。ありがとうございました。

白鷺クラブ フィリピン産業視察報告

副団長 中本 宏樹



フィリピン産業視察に副団長として参加しました。まずは、フィリピンの第一印象ですが、「日本からなんて近いのだろう!」でした。関西国際空港からマニラまで定刻なら飛行機で4時間30分、しかしながら若干早く到着して4時間かからないフライトで到着致しました。他の東南アジア地域と比べて

フライト時間の面ではかなりのメリットがあると感じました。また、フィリピンの国民性はどんなことでも「YES!」と言ってチャレンジする事だと訪問先のROHM Electronics Philippines, Inc.の土橋社長にも教えていただきました。同じ東南アジアでも、じっくり議論を重ねるタイの国民性とは違うところもあるのだなと感じました。

初日に訪問した、在フィリピン日本国大使館では、フィリピン経済や貿易について説明頂きました。対日主要輸出品目と対日主要輸入品目はどちらも電気機器 (集積回路等) であり、これはどういうことかというフィリピンでは安価な労働力による現地組込作業等には大変適しているものの、原材料や素材を供給するサプライチェーンはまだまだ育っておらず日本からの輸入に頼ってお

り、その分野での成長が今後の課題になると仰いました。

二日目と三日目は日本からフィリピンへ進出している企業 (Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc., ROHM Electronics Philippines Inc., NKC Manufacturing Philippines Corp) を訪問しましたが、フィリピン人は英語コミュニケーション力が高い事が大きなメリットだと仰いました。小学校から英語の授業があるため、社員と英語でコミュニケーションが取れる方が多いとの事でした。また、経営面では他のASEAN地域と比べて税制優遇が大きい事も進出のメリットだと聞きました。(ただし、政府の政策はすぐに変わるので注意が必要とも...) 懸念事項としては、管理職候補や理工系人材が少ないとの事でした。これは英語力の高さから、優秀な人材は給与待遇面の高い海外に流出してしまうからです。また、インフラ整備の問題もあります。フィリピンでの電気代は日本とほぼ同じである事や、何よりも交通渋滞が激しかったです。私たちの今回のバス移動でもかなりストレスを感じる部分でもありました。

今回の視察研修ではフィリピンの良い面もそれ以外の面もどちらも勉強させて頂きましたが、なによりも現地にきて肌で感じる事によって得られる経験が一番だと思います。改めて、今回ご一緒いただきました視察メンバー及び現地関係者に感謝申し上げます。

視 察 所 感

(株)大日本科研 岡本 浩志

フィリピンの製造業は部品の殆どを日本等から輸入しています。英語ができ人件費が安いのがメリットですが2040年迄の15年間で所得を3倍にする長期経済ビジョンや外資系企業から2～3倍の給料で引き抜かれるなどリスクもあります。

(株)砂崎製作所 砂崎 達哉

初めて訪問したフィリピンには、日本には無い利点と欠点が多くあり、見た全てが新鮮でした。特に人々の愛嬌とそのエネルギー源となっている食事の量には圧倒されました。この素晴らしい視察に関わられた全ての方々に変感謝しています。

(株)山岡製作所 山岡 靖尚

セブ島訪問はリゾート地の印象を覆すものとなりました。リゾートは海沿いのごくわずかな地域に限定され、都市部にはスラムや工業地域が点在し、インフラもまだまだ未整備でした。島民の労働意識や教育レベルも首都マニラとは格差が大きく、言語や文化の異なる数々の島を抱えるフィリピンの複雑さを垣間見る機会となりました。

(株)泉産業 中森 悠輔

到着時より生産年齢人口の多さを実感し、更にはネットワーク環境の良さも体験できたがインフラに対する大きな課題も感じました。然しながら、課題に対する仕事の可能性も同時に感じる事ができ有意義な視察となりました。

京和ブロンズ(株) 河井 領

視察して感じたことは、政治と経済はやはり深く関連している、という点です。人口も多く、若者が多いフィリピンが、なぜタイやマレーシアに経済で後れを取っているか。それはまさに『政治の不安定』に尽きると思います。逆に政治がまとまれば非常にポテンシャルを持った国であるとも感じました。

(株)阪村エンジニアリング 松井 大介

人口構成と人口数や英語話者数には魅力があります。国内製造業の裾野が小さいため特定の業種では進出できる可能性がありますが、自動車産業など大きなサプライチェーンが必要な産業には進出の条件は整っていないと感じました。

(株)菊水製作所 島田 理史

まず、当初の予定では別の国でしたが、諸事情による変更で、急遽のフィリピンへの変更がなされました。幹事の方や事務局の方のご尽力には感謝します。

様々な企業訪問により、フィリピンは未成熟ではありますが活発な人員を沢山保有している市場であると認識できました。

(株)旭プレジジョン 山中 泰満

今回初めて海外産業視察に参加させて頂きました。英語が堪能な労働力と競争力のある人件費を武器に、ASEAN諸国の中でも成長が著しいフィリピンでは、BPO産業だけでなく、製造業への展開が今後の更なる発展へのカギとなると感じました。フィリピンの活気と魅力にあふれる大変有意義な視察に参加できましたことに感謝いたします。

2024 フィリピン産業視察団 団員名簿 (敬称略)

団 長	山本 光	(株)平安 専務取締役
副団長	中本 宏樹	福知山重工(株) 社長
	岡本 浩志	(株)大日本科研 社長
	山岡 靖尚	(株)山岡製作所 社長
	河井 領	京和ブロンズ(株) 社長
	島田 理史	(株)菊水製作所 社長
	砂崎 達哉	(株)砂崎製作所 社長
	中森 悠輔	(株)泉産業 社長
	松井 大介	(株)阪村エンジニアリング 社長
	山中 泰満	(株)旭プレジジョン 社長
	金井 進	(公社)京都工業会 審議役
	矢谷 陽子	(公社)京都工業会 総務課長

視 察 日 程

日次	月日	発着地・滞在地	摘要
1	11/13 (水)	関西空港発 マニラ着	午前、空路マニラへ 着後、市内視察 ・日本大使館表敬訪問 <マニラ泊>
2	11/14 (木)	マニラ	・Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc. 訪問 ・ROHM Electronics Philippines Inc. 訪問 ・政府関係機関、現地駐在員の方々との夕食懇談会 <マニラ泊>
3	11/15 (金)	マニラ発 セブ島着	午前、空路セブ島へ セブ着、空港にてフィリピン政府によるお出迎え ・貿易産業省投資委員会セブ支局主催ビジネスランチ ・貿易産業省 Fablab Cebu 視察 ・NKC Manufacturing Philippines Corp 訪問 <セブ泊>
4	11/16 (土)	セブ島発 関西空港着	午前、空路マニラ乗継関西空港へ 夜、関西空港着

3年に一度実施の白鷺クラブ海外視察団派遣はコロナ禍で中断していたが、今年度6年ぶりに実施した。2022年に実質GDP成長を前年比で+7.6%達成し、23年通年も+5.6%と、周辺国と比較しても高い水準で推移し、国としてマニラ郊外やセブ島でも経済特区を設け外資企業に対して多くの優遇制度を提供し日系企業も多く進出しているフィリピン共和国を訪問した。

■11月13日（水）マニラ市

◇在フィリピン日本国大使館 訪問

公使 二瓶大輔氏 商務官 中川和騰氏

日本国大使館は、米
国などの大使館が並ぶ
一角に位置している。
入口で車両チェックを
受けた後、各人のIDを
提示し、氏名が記載さ
れた札を受け取り、そ
の後、ロビーで電子機器をすべてロッカーに預けてから入館するという、厳重な検査体制が敷かれている。



(日本国大使館にて)

会議室に案内されると、二瓶公使と中川商務官から歓迎を受け、フィリピンの経済や貿易状況、国別の直接投資額の比較、日本との経済関係、日系企業の進出状況、さらにはフィリピンの強みと弱みについての説明をいただいた。その後、参加メンバーによる自己紹介と質疑応答を通じて意見交換を行った。「日本には約30万人のフィリピン人が働いており、若い世代の対日感情も良好である。一方で、英語が通じるフィリピン人は世界中から求められており、人材を確保するには働きやすい環境を整えることが重要だ。フィリピンの発展には、今後製造業をどれだけ育成できるかが鍵となる」とのことである。

■11月14日（木）マニラ市郊外

◇Philippine Manufacturing Co.of Murata,Inc.訪問

President 向田昌由氏

Admin Director 野津充輝氏

設立：2011年9月、資本金：Php7,700B

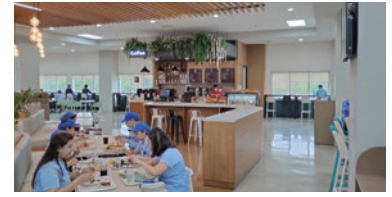
敷地面積：230,056㎡、従業員数4,151名（2024年9月現在）

マニラ市内から車で約90分（マカティ商業区から約50km）南に位置するバランガイ・ファーストインダストリアルパークを訪問。交通混雑が少なかったため、予定より30分ほど早く到着したが、快く対応いただいた。



まず、向田社長と野津ディレクターからフィリピンにおけるものづくりの現状や取組についてお話を伺った後、施設内を見学。同社が所在するこの工業団地（FPIP）は約457ヘクタールの広大な敷地に135社が入居し従業員は合計で71,746名。135社のうち75社が日系企業である。同社の海外拠点としては2021年5月に初めて、100%再

生可能エネルギー由来の電力を実現。敷地内には6,768枚のソーラーパネルが設置されており、これは日本の約1,000世帯分の年間電力消費量に相当し、年間2,947トンの二酸化炭素排出を削減している。フィリピンでの事業運営における魅力と懸念は以下の通り。



(人気の社員食堂)

【魅力】

- 1.比較的安価で豊富な労働力（人材）
- 2.国民平均年齢が26歳と若い（人材）
- 3.英語力が高い（人材）
- 4.対日輸出入のアクセスが良好（生産環境）
- 5.工業団地の選択肢が豊富（生産環境）

【懸念】

- 1.労働コストや退職率の上昇（人材）
- 2.管理職や理系人材の不足（人材）
- 3.脆弱かつ非効率な物流インフラ（生産環境）
- 4.原材料や部品の現地調達が困難（生産環境）
- 5.法制度の未整備や運用の不備

◇ROHM Electronics Philippines,Inc. 訪問

President 土橋孝規氏

Factory Manager 稲垣智久氏

Deputy Headquarters Manager 是石竜馬氏

Adviser 浅野高史氏

設立：1989年9月 資本金：12億2,000万ペソ

従業員数：4,793名（2024年1月現在）

主な製品：IC、センサー、トランジスタ、ダイオード、プリントヘッド、抵抗器

マニラ市内から車で1時間弱（マカティ商業区から約27km）に位置するカビテ州カルモナ市のPTC工業団地を訪問した。京都本社と同様に丁寧な出迎えを受けた。会議室にて同社の取組概要を説明する動画を視聴し、工場施設内を見学した後、マニラでのものづくりについて詳しい話を伺った。同社はこの地に進出して35年が経過しており、社員が働きやすい環境を整え、福利厚生も充実させている。このため地元でも一目置かれる存在となっている。英語を話せる人材が豊富で、優秀なエンジニアが海外企業へ転籍する例も多いが、同社では各部門長を現地採用の人材が担い、独自の企業風土を築いている。その結果、採用面では応募者が多く、給与面で多国籍企業に劣る部分を待遇面で補い、働き続けたいと希望する社員が多い。



フィリピンの社員は明るく前向きな人材が多いことも特徴である。一方、懸念事項としては、インフラや治安面の課題に加え、トップが交代すると国の政策が大きく変わる可能性が挙げられる。

◇夕食懇談会を開催

- ・ Executive Director Philippines Board of Investments (BOI)
Ms. Evariste "Eries" M. Cagatan
- ・ Director Philippines Board of Investments (BOI)
Ms. Lanie O. Dormiendo
- ・ ジェトロ マニラ事務所 所長 中村和生 氏
- ・ フィリピン村田製作所 社長 向田昌由 氏
- ・ ロームエレクトロニクスフィリピン 社長 土橋孝規 氏

今回の視察団派遣に際し、現地でお世話になった方々をご招待して夕食懇談会を開催、フィリピンのビジネスやライフスタイルについて理解を深める良い機会となった。



■11月15日(金) セブ島

◇貿易産業省 (DTI) 投資委員会 (BOI) セブ支局主催 ビジネスランチ

- ・ 在セブ日本国総領事館 総領事 松尾秀明 氏
- ・ Provincial Director,
Department of Trade and Industry - Cebu Provincial Office
Ms. Rose Mae M. Quinanola
- ・ Chief Investments Specialist,
Board of Investments - Cebu Extension Office
Ms. Floreza D. Alpuerto
- ・ International Sales and Leasing Director,
Aboitiz Infra Capital
Ms. Kristine Joy Agas-Sia

空港のあるマクタン島から会場があるセブ島への移動の際、交通渋滞に巻き込まれ予定より遅れた開始となった。最初に貿易産業省 (DTI) 投資委員会 (BOI) から、セブの投資環境について解説された。BOIでは、セブへの戦略的投資として電気自動車、スマート/ハイテク製造業、半導体組立、テストのアウトソーシング、グリーンメタル、ハイテク農業、再生可能エネルギー、データセンター等を優先分野としている。またフィリピンの強みとして、若くて優秀な労働者、豊富な天然資源、戦略的な立地を挙げられた。その他にも税の優遇・免除や、製造業・輸出業向けのインセンティブやワンストップサービスを提供する経済特別区など、セブへの投資について紹介された。続いて松尾総領事から、日本とセブのアクセスの良さや過ごしやすい気候、英語が話せて一生懸命働く労働者などのセブの魅力と、一方で電気代や賃金が上昇気味であることなど、フィリピンのネガティブな面についても紹介された。最後に、工業団地等の開発を手掛けるアポイティス インフラキャピタル社についてビデオで紹介された。



◇ Fab Lab (Fabrication Laboratory) 見学

Fab Labとは、デジタルからアナログまでの多様な工作機械を備えた実験的な地域工房とその世界的なネットワーク。今回訪問したFab Lab Cebuは貿易産業省の協力でフィリピン大学セブ校のコミュニケーションアート&デザイン学科内に設立され、学生以外の一般の方もここに来て作業することが可能である。当日は製造系企業3社との交流と、工房での学生らの取組を見学した。



ハンディ3Dスキャナーで計測

◇NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORP (PLANT1) 訪問

President 松田哲彦 氏

本社：中西金属工業(大阪) PLANT1設立：1997年3月
従業員数：853名(男性300名女性553名)(Plant1 658名)
主な製品：ラバーシール、サッシローラー、プラスチックリテーナー、メタルリテーナー

マクタン島の工業団地内にある同社訪問のため、今度はセブ島からマクタン島へ向かったが再び交通渋滞にあり、大幅な遅参となったが快く対応いただいた。



同社はMEPZ IIという工業団地内に3つの工場を持ち、今回はその内の主力工場PLANT1を訪問。まず、会議室にて同社の紹介動画を視聴し、工場内を見学した後、会社概要等についてお話を伺った。

工場は24時間稼働で2直体制。夜勤をいとう風潮はあまりない。男女比は3：7で女性が圧倒的に多く、またフィリピンは女性がよく働くとのこと。

最後に全社的に展開している様々な活動についてご紹介いただいた。

- ・SDG活動(ガーデニング、地域奉仕活動、植樹等)
- ・安全週間活動(日本の安全週間に合わせて毎年7月)
- ・ワークライフバランス(Fun Run、Sportsfest)
- ・品質月間(日本と同様に毎年11月。KYパトロール、標語やポスター制作等)
- ・表彰(皆勤、改善、最優秀従業員)



セブ空港にて歓迎

外国人材採用に向けた送り出し現場の視察研修

人材確保が課題となる中で、若く優秀な社員の確保に向けて、海外の大学等高等教育機関で学ぶ学生採用を検討している企業を対象に、直接現地を訪問し現状を知る視察研修を開催した。

その主な内容は以下の通り。

- ・大学等高等教育機関を訪問し、教育や学生について話を聞き現場を視察する
- ・現地の人材送り出し機関を訪問し、日本企業への送り出し直前の教育や学生について話を聞き現場を視察する
- ・現地工場等を訪問し、現地労働者の労働状況を視察する
- ・京都企業の現地駐在員の方々との懇談により、現地従業員の様子などを聞く
- ・マーケット（商店街）、大学食堂、学生寮などを訪問し、生活環境を視察する

日次	月日	発着地・滞在地	摘要
1	11/23 (土)	関西空港発 ハノイ着	午後、空路ハノイへ 夜、ハノイ着
2	11/24 (日)	ハノイ	・市内視察
3	11/25 (月)	ハノイ	・ダイキンベトナム ・文化シャッターベトナム ・ハノイ工科大学 ・日本駐在員との夕食懇談会
4	11/26 (火)	ハノイ	・日本語学校 / ハノイ工業大学 ・ITM (現地送り出し機関) ・LIC 短期大学 ・Binh Minh TMC (ローカル企業) ・JETRO プリーフィング & 夕食懇談
5	11/27 (水)	ハノイ発 関西空港着	未明、帰国の途へ 日の出の頃、関西空港着

【各視察先について】

■11月25日 (月)

◇ダイキンベトナム/DAIKIN AIR CONDITIONING (VIETNAM) JSC

応対者：西野工場長

第二タンロン工業団地（運営：住友商事）に位置する。主力製品は、ベトナム国内向けルームエアコン。従業員は約950名で、うち日本人駐在員は8名。ベトナムは短期で見ると不況にあり、売上はここ数年伸びていない。国内の電気代が高いため、インバーター式エアコンの普及を目指し営業展開している。



従業員の大半が現場作業員で、エンジニアは約20名。これらの人材確保は当社が独自に行っており、最近では工場近隣に所在する大学の学生をインターンシップで招き、その中から優秀者を採用するスキームを構築している。

日本の滋賀工場にもベトナム人エンジニアが働いているが、こちらは本社人事主導の対応であり、当社の採用活動とは完全に切り離している。そのため、当社勤務者

を日本に派遣し研修を受けさせる制度はない。ベトナム人は勤勉でまじめな印象だが、相手の考えを慮る能力が欠けており、細かい作業指示が大事だと思っている。ベトナム人の離職率は高く5～6%台で、特にワーカーの離職率の高さが目立つ。離職を少しでも減らすため福利厚生に力を入れており、各種のイベント開催のほか工場敷地内にサッカー場も設営した。

◇文化シャッターベトナム/BX BUNKA VIETNAM CO.,LTD.

応対者：山口副社長兼工場長、岸本総務部長

ベトナム国内向け製品を製造しており、日本をはじめとした他国への輸出は行っていない。主力製品はドア及びシャッターだが、防火に対するレギュレーションが日本とベトナムで異なっており、日本とは異なる特性（防熱）の製品を製造している。



技能実習生を日本の文化シャッター子会社に派遣する役割を担っており、現在10数名が日本に3年間派遣中で今年も数名が日本に行く予定。また、日本での実習を終え当社に戻って来た者は20名を超える。しかし最近では、日本勤務を希望する作業員があまり出てこないことが課題。

ベトナム国内の労働事情は厳しく、タンロン工業団地でも人材が不足している。ベトナム経済が徐々に発展しており、今年の最低賃金のアップ率は6%、来年も同程度が見込まれ、賃金が上がってきている。

現場の作業員は、自分の業務に余裕があっても、忙しくしている他人の業務を自主的に応援することはなく、追加業務には常に手当が付きまとう。一方、スタッフ社員は本人のスキルアップ、キャリアアップを説明することで、色々な仕事を与えることは可能。

ベトナム人とのコミュニケーションを取る際の留意点として、相手が日本語を話せるからと言って、100%理解しているとは限らないことを知っておくこと。指示をしっかりと出さないと、「分かった」と返事をされても伝わっていないことがある。

◇ハノイ工科大学/HANOI UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

応対者：Nguyen Kien Trung

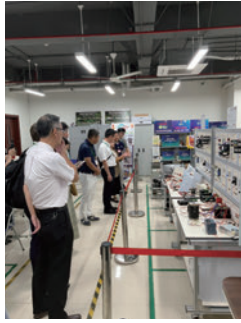
(機械製造工学部 副学部長)

学生は1学年に2000人。工業系の4学部があり、そのうち機械製造工学部は600～700人。日精テクノロジーや住友、マキノなどの企業と共同研究を行うなど、企業側の出資を伴う日系企業とのコラボに熱心に取り組んでいる。



学生の卒業時期は2月と7月で、7月の方がより多くの学生が卒業する。求人タイミングは5月か12月が良い。ただし、多くの学生は日本語を学んでいないため、

採用の1～2年前に内定を出し、早くから日本語を学ばせるのがよいと思う。なお、求人前に学生向けの企業紹介をすることも可能で、学内の就職説明会は毎年11月に実施している。同就職説明会はすべての学部から学生が集まるため、来年からは、機械製造工学部の学生だけを対象とした就職説明会も開催予定である。



■11月26日(火)

◇ITM日本語センター / ハノイ工業大学

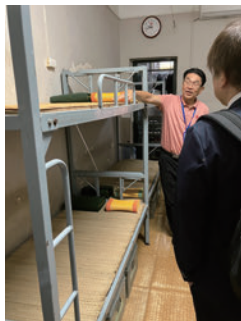
応対者：ITM ハノイ教育センター 喜多山課長

ITMはベトナム国内のいくつかの大学、短大と提携しており、提携大学には当社の日本語教師が常駐し、正式な大学の授業として日本語を教えている。今回訪問したハノイ工業大学では、第二キャンパス敷地内に技能実習生向けの日本語研修施設を大学側が設置し、当社が受託運営している。技能実習生向けの半年コースがメインだが、2ヶ月程度のカスタム研修等にも対応可能。半年コースでは、語学だけではなく、文化面、生活面等の日本の基礎教育も実施している。また夜間には、日本語を学びたいと考えているハノイ工業大学の学生向け授業も行っている。



現在の技能実習生として来日を控えている生徒数は200名弱。昨年同時期には約350名が在籍しており、コロナ前は700～800名が在籍していたが、直近は円安等の影響により生徒数が減っている状況。生徒は地方出身で高校卒業後の若者が多い。半年コース修了時点で日本語検定N4合格レベルを目標としている中、実績としては約95%がN5レベルに到達し、そのうち40%はN4レベルになっている。ベトナム人は言われたことをきちんとするが、自分で主体的に動くことは苦手な人が多い。

中韓台と日本のベトナム人材受け入れ条件(処遇)を比較すると、韓国が一番良く月額給与で日本の20～30%増しだが成果主義で厳しく、中国・台湾は日本よりも低めであるが語学を学んでいなくても受け入れ可で働きながら言語を学んでもらうスタンスで人気がある。



◇ITM本社(現地人材送り出し機関等グループ)

応対者：ITM株式会社 阿部営業担当課長

ITMは、日本企業向けのベトナム人材送り出し機関等の10会社が連携して構成する会社。昨今は大学生を日本企業で採用してもらおうべく、中長期のインターンシッ

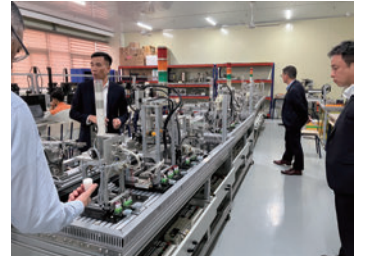


ププログラム(3ヶ月～1年)を開始している。また、企業ニーズを聞き、学生を集客することも可能である。その他、建設・物流から税務、法務まで起業するために必要なすべてのサービスをグループ会社内で行えるのが特色である。

◇LIC短期大学(工学系の短期大学)

応対者：ゾン教育部長、ハン国際企業サポート部長

2019年に設立された私立の3年制短期大学。現在800名の学生が在籍している。機械工学、電気電子工学、自動車工学、情報工学の4学部を設置しており、学生数は電気電子工学が1番多く、次いで自動車工学、情報工学、機械工学の順となっている。



正規の語学授業として中国語、韓国語、日本語がラインナップ。中国と韓国のいくつかの企業は当大学を支援しており、自社へのインターンシッププログラムの権利を付けたうえで無料の語学授業を用意しているが、日本企業はまだ参画していない。中韓企業はインターンシップの結果が良ければそのまま正社員にするので、学生から人気がある。一方、参入している企業のない日本語はあまり人気がなく、現在学んでいるのは50名程度。ただしその50名の日本での就業意欲は高い。授業終了時にN4レベルの日本語になるようなカリキュラムとなっている。卒業後の職種は本人の能力によりさまざまだが、上位層は設計職に従事している者がいる。中、下位層はマシンオペレーターなど。

企業説明会などはいつでも受け付けているが、1～5月の間が好ましい。最低2週間前に依頼をすれば、学校側が学生を集めてくれる。

◇BINH MINH TMC CO., LTD. (ローカル企業工場)

応対者：クアン副社長

金属の精密加工メーカー。日本で働いた方がベトナムに帰国し会社を立ち上げ、急成長している企業。治具、金型、量産品、プロトタイプ品などの製造請負。従業員400名程度(社員320名、パート40名、学生40名)で、現在は3工場にトータルで200台以上のマシニングセンターが稼働している。日本メーカー製の機械が多い。部署によっては2直2交替勤務を実施。1年後に第4工場を建設予定。



◇JETROハノイからのブリーフィング&夕食懇談

応対者：小林次長

ハノイ事務所の小林次長から、ベトナムの最近の社会・経済情勢や日系企業の動向などについての解説を受け、ベトナムの最新状況について理解を深めた。

エンジニアで無くても解る「モノづくり超基本」勉強会

モノづくり企業に勤める社員の皆様を対象に、製造業に携わる者として自社製品を理解する上で欠かせないモノづくりの基本知識について専門知識がなくても学べる勉強会を、昨年度に続き、各分野の第一線で活躍されている企業や研究所の方々を講師に迎え5回にわたり開催した。

第1回「蓄電池の進化がもたらした産業界の発展 ～蓄電池の仕組み、用途、今後の見通し～」

日時：8月29日(木)

講師：(株)ジーエス・ユアサコーポレーション 研究開発センター 戦略企画室長 稲益 徳雄氏

内容：蓄電池の基本的な仕組みから用途、近代電池の技術開発の歴史、リチウムイオン電池、現在の課題、今後の見通しなどについて

主な感想：電池の基本知識からご説明をいただき、加えて身近で使用するものでもあり、理解しやすかった。電池に関して、その歴史、構造、メカニズム、生産工程など幅広い視点から解説いただき、とても勉強になった。講師の方の蓄電池への情熱が伝わってきた。製造の動画なども面白かった。

第2回「やさしい半導体講座 ～“産業の米”と呼ばれる半導体とは～」

日時：9月13日(金)

講師：(株)SCREENホールディングス シニアフェロー 灘原 壮一氏

内容：トランジスタなど半導体素子やそれらが集積したIC(集積回路)を指す半導体の構造や製造工程、進化の歴史や世界の動きなどについて

主な感想：複雑な半導体の製造工程を図で丁寧に解説いただき、とても分かり易かった。初心者でも理解しやすと感じた。半導体が身近なところで使用されている事や、どういった経緯で現在の半導体不足に至ったか等、理解できた。

第3回「技術革新を促進する新素材開発 ～各材料の特性と用途、新素材開発の展望～」

日時：9月27日(金)

講師：地方独立行政法人 京都市産業技術研究所 研究長・知恵産業融合センター長 永山 富男氏

内容：三大材料と呼ばれるセラミックス、金属、プラスチックの歴史、特性と用途、将来展望などについて

主な感想：時代のニーズや技術の進歩により、様々な素材が使われてきたことがよく分かった。セラミック、金属、プラスチックの基礎的な特徴が分かり易い内容で、半透明のセラミックなど、最先端の素材情報も知れて良かった。

第4回「こんなに使われている、モーターの世界 ～モーターの仕組み、用途、課題～」

日時：10月29日(火)

講師：ニデック(株) CTO技術企画部長 大江 貴之氏

内容：電気的エネルギーを機械的エネルギーに変換する装置であるモーターの仕組み、モーターの種類と利点、今後利用が想定される用途などについて

主な感想：エンジン車と電気自動車と比較して、それぞれの効率やエネルギーの回収について知ることが出来た。業界が抱える課題から開発者が抱える課題に話を繋いでいただいたので、今後の業界の動向、新製品を開発するにあたって求められているものなどを理解できた。

第5回「社会に広がるレーザ加工～レーザ加工の仕組み、用途～」

日時：11月20日(水)

講師：(株)片岡製作所 先端レーザ研究所 所長 加藤 悦史氏

内容：通常の光とレーザ光の違いといったレーザの基礎から、レーザの種類や加工特性、レーザ加工の種類や用途などについて

主な感想：身近になってきたレーザーであるが、種類やメカニズム、技術動向など、知らなかったところをとて理解しやすく教えていただいた。用途や加工する素材に合わせて、様々な光をコントロールされていることがよく分かった。

脱炭素に向けた取組支援セミナーを開催

開催日：10月28日(月)

参加者：48名

会場：京都工業会(オンライン併用)

地球規模での気候変動により、気温の上昇、熱中症患者の増加、ゲリラ豪雨、干ばつ、生物種の生息域の変化や消失など、私たちの生活にも影響が出ている。

脱炭素社会の実現は大企業だけではなくサプライチェーン全体で取り組む必要があることから、特に中小企業に向けたセミナーを開催した。

講演1：「京都ゼロカーボン・フレームワークと省エネ補助金について」

京都府 総合政策環境部

脱炭素社会推進課 副主査 興津 良介氏

中小企業の脱炭素化の推進・特定事業者制度等の担当者から、京都ゼロカーボン・フレームワークなど地域脱炭素・京都コンソーシアム(2022年12月設立)が実施する脱炭素経営支援メニューの12事業(知る、測る、減らす、情報公開)について解説いただいた。

講演2：「ESGと京都の地域金融」

(株)京都フィナンシャルグループ

サステナビリティ経営統括担当部長 三宅 夕祐氏

企業が温暖化のリスク・機会を認識して、その対策に取り組むことは、機関投資家・金融機関からも重要視されている。ESG投融資の基本知識や最新情報、サステナビリティ・リンク・ローン(SLL、削減目標達成により金利優遇を得られる融資制度)など、地域企業をどのように支援して行くかについて講演いただいた。「京都ゼロカーボン・フレームワーク」のスキームを活用すれば、京都版SLLにおいて必要となる第三者評価に京都府条例に基づく特定事業者制度を準用すれば、審査コストを省略(個別に外部評価機関への評価書作成が不要)できるメリットがある。

講演3：「従業員の力を底上げする脱炭素に向けた取組」 サンコーエンジニアリングプラスチック(株)

専務取締役 春名 健至氏

制度活用で取り組まれた事例を紹介いただいた。京都府と京都知恵産業創造の森によるEMS診断を経て、2022年4月に経営者と従業員による「節電プロジェクト」が発足した。実際に着手すると、プロジェクトの目標、さらには投資すべき項目設定には、従業員との情報共有が重要と気づき、それまで従業員に非公開だった毎月の電力使用量を共有。すると、従業員から提案が出て、室内・外気温度センサをエリア毎に設置し、1年に亘るモニタリングで季節毎のエアコンの設定温度が検証できた。この様な「見える化」による改善を進める中で、「省電力=脱炭素」の意識が従業員一人ひとりに芽生え出したことを経営者として実感できた。

これら3つの講演を通じ、脱炭素に向けた取組への理解が深まると共に、情報だけでなく具体的な事例を添えて紹介できるよう、工業会としても取り組んでいく必要性を実感した。

品質保証懇話会(1泊研修)で 福井県視察を実施

開催日：10月21日(月)・22日(火)

コロナ感染拡大で実施できていなかった1泊研修を開催し13名が参加して、5年ぶりに福井県に出向いた。

初日(10/21)は、世界的な材料メーカーに躍進している(株)村田製作所のグループ最大の事業拠点で新商品・技術の開発拠点でもある(株)福井村田製作所を訪問。現在、取り組んでいるDR(設計審査)や仕入先と連携した購入品の品質保証、国内外の分析センターを活用した良品・不良品の解析と信頼性等、世界シェアを支える技術に関して丁寧な取組を学んだ。

二日目(10/22)の午前中は、1963年の設立以来、高圧配管用継手の製造販売で建築業界内で国内トップシェアを誇る(株)日本エーエムシー永平寺工場を訪問。多能工化による生産性の向上や福井大学との共同開発によるAIを活用した機械加工ラインの内面バリ検査自動化システム等、人手不足の時代の中で、先を見据えた取組事例を学んだ。

午後は、1963年に設立され、電子部品や半導体ウエハ等各種材料への電解めっき加工で、第1回ものづくり日本大賞において経済産業大臣賞等多くの賞を受賞されている清川メッキ工業(株)を訪問。QMSは不良ゼロ、EMSは地球環境保持を方針にした「環境経営」の取り組みに学んだ。

この2日間の研修を通し、訪問先の取組事例はもちろん、懇話会メンバー間の交流も深まる有意義な研修となった。

《DXセミナー開催予告①》

○DX推進人材育成講座 ソフトウェアツール編

～遠隔支援による製造現場の省力化の紹介と

AIチャットツール(現場Q&A)構築ハンズオンセミナー～

開催日 2月13日(木)、2月20日(木)、2月27日(木)

13:30～16:30(13日は14:00～16:30)

《DXセミナー開催予告②》

○中小モノづくり企業のDX推進講座

～DXセレクション2024選定企業の優良事例から学ぶ～

開催日 2月4日(火)、2月18日(火)、2月28日(金)

3月4日(火)

いずれも10:00～11:30 オンライン開催

詳しくは工業会HPでご覧下さい

(問い合わせ 075-353-0061)

R&D問題懇話会(1泊研修)で 山梨県視察を実施

開催日：11月14日(木)・15日(金)

今年度は15名の参加者を得て山梨県に出向いた。

初日(11/14)は、1962年以来、リニアモータ推進浮上式鉄道の研究を行う山梨県立リニア見学センターを訪問。研究の歴史や将来の可能性について、リニアの仕組み解説映像や超電導ラボ等体験型施設の見学を通じて学んだ。

二日目(11/15)の午前中は、1955年の創業からCNC(コンピュータ数値制御)の開発をスタートさせて以来、一貫して工場の自動化を追及しているファナック(株)を訪問。研究開発の基本姿勢である ① Weniger Teile：より少ない部品でつくる工夫 ② Reliability Up：商品の信頼性を高めること ③ Cost Cut：どこの商品より低いコストであること の考え方や研究開発体制を紹介いただき機械加工工場(IoTを活用したりリモート監視)及びサーボ工場(知能ロボットセル)の見学を行いスマートファクトリーについて学んだ。

午後は、山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センターを訪問。劣化メカニズムに係わる知見ならびにナノテクノロジー等の先端技術の融合により、触媒・電解質膜・MEA(Membrane Electrode Assembly(膜電極接合体))等の燃料電池の材料研究等を実施し、高性能・高信頼性・低コストを同時に実現可能な基礎技術を確立することで、燃料電池の本格普及に資することを目的に2008年に設立された。NEDOが行う固体高分子形燃料電池の実用化に向けた技術開発やこれを展開する産学官が連携して開発を行う先端的な研究内容を学んだ。

この2日間を通し、訪問先の取組事例への理解が深まり、懇話会メンバー間の交流も含め、充実した1泊研修となった。

【購買調達革新研究会】

前期にアドバイザー 北村繁一氏（元オムロン株）から購買管理の基本を学び、10月例会では、今年度に挙がっている5つのテーマ（①コストダウン、②コスト査定、③海外調達/SCM、④リスク管理/法規制、⑤標準品部品調達）への現状の取組について各社紹介を行っていた。その後、紹介内容のテーマを活用出来ないか討議を行った。

【実習内容】（10月15日開催・抜粋）

◇各社取組み

①コストダウン

商流変更、設計・寸法の見直し、在庫ポイントの見直し

②コスト査定

見積情報の一括管理、原価構造分解表

③海外調達/SCM

現地作業員へ加工指導、品質監査

④リスク管理/法規制

グリーン調達ガイドの配布、サプライヤー継続評価

⑤標準品部品調達

同レベルのサプライヤーへ相見積、発注管理

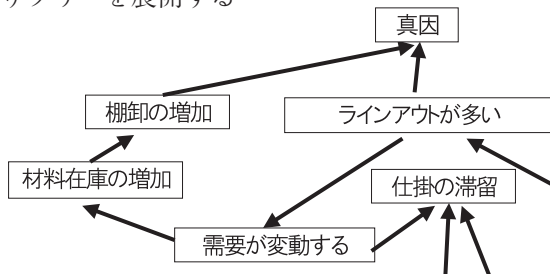
【生産管理（TOC）研究会】

前期にアドバイザー 高橋浩史氏（日新電機株 執行役員 情報システム部 部長）から学んだ制約条件理論（TOC）に基づく全体最適をより実践的に行うために、11月例会では参加企業の題材をテーマに実践演習を行った。

【討議内容】（11月8日開催・抜粋）

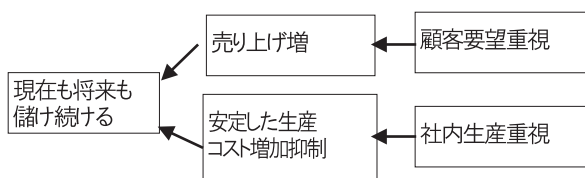
◇問題構造ツリー（図は全体の1部）

題材テーマを基に問題点を列挙して遡及的に真因をさかのぼりツリーを展開する



◇対立構造図

問題構造ツリーの根本原因から中核問題を抽出する
中核問題と対立する問題を対立構造図に描く



「独自の新規事業を創出する

～ 共創活動によるイノベーション創出への挑戦 ～

開催日：11月15日(金)

参加：70名

テーマ「村田製作所における新規事業創出活動

培ってきた独自技術とパートナー企業様との共創活動」

株式会社村田製作所 執行役員

技術・事業開発本部

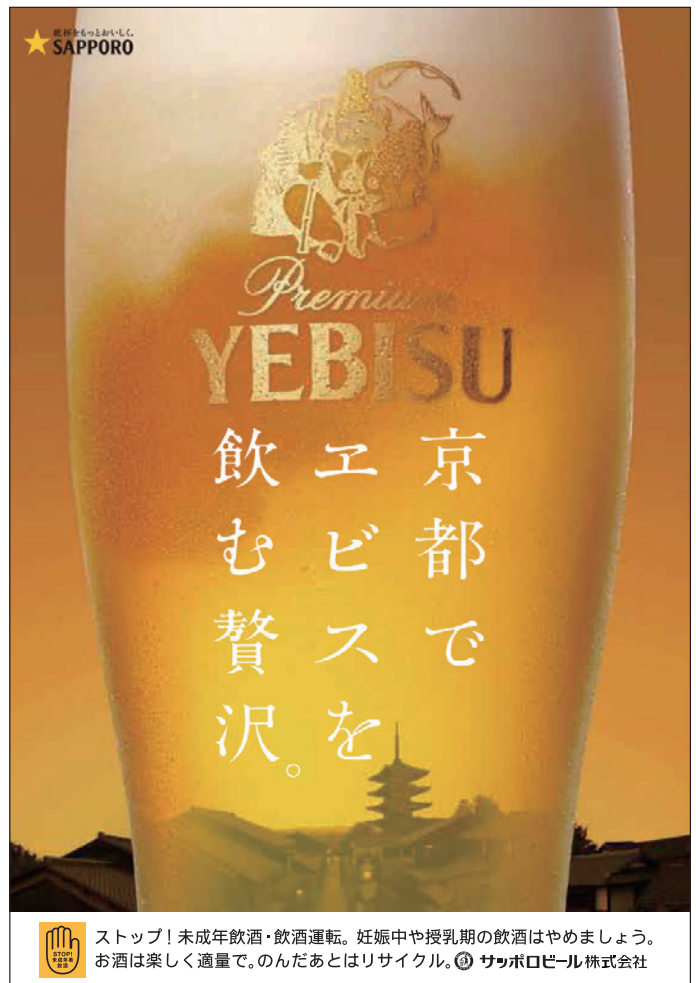
技術企画・新規事業推進統括部

統括部長 川島 誠氏



モノづくり企業において、持続的な成長を図るために新規事業創出は喫緊の重要課題である。オープンイノベーションの推進が定着し多くの取組がなされているが、事業化に繋げるには幾多の障壁に阻まれる。今回、革新的な技術とソリューションの創出によりエレクトロニクス社会の進展に貢献しておられる株式会社村田製作所における新規ビジネス創出への取組や強い思いについてお話を伺った。

海外赴任から、新規事業や事業成長への展開など丁寧なお話は参加者を魅了し且つエールとなった。また独自の凄い技術をコアとして共創企業と共に社会課題を解決することにより、新たな市場を開拓していく強いビジョンは、多くの参加者から共感と称賛が寄せられていた。



ストップ！未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。© サッポロビール株式会社

「2024年アメリカ大統領選挙と国際情勢
～日本への影響～」
同志社大学 法学部 教授
村田 晃嗣氏

10月27日の日本の衆議院議員選挙、11月5日のアメリカ大統領選挙を間近に控えたタイミングでの開催となった。講演では、トランプ対“ハリス”になった背景や構図、更に同時に行われる連邦議会選挙の重要性など、アメリカ政治について縦横無尽に解説された。どちらが勝つかということよりも、ハリス氏が勝てば今回、トランプ氏が勝てば次回、アメリカで非常に大きな世代交代が起こるとということが重要であり、これに日本がどう対応できるか、が本質的で重要な問題であり、日本では、国内政治の安定化に取り組んでいくことが大切である、とまとめられた。



「これからの日本の半導体産業」
(株)SCREENホールディングス 顧問・理学博士
灘原 壮一氏

講演では、今や戦略的重要物資となった半導体について、製造・市場に関する世界的動向や技術的進化を解説された後、日の丸半導体が凋落した要因として①日米貿易摩擦によるメモリー敗戦 ②設計と製造の水平分離の失敗 ③デジタル産業化の遅れ ④日の丸自前主義の陥穽 ⑤国内企業の投資縮小と韓台中の国家的企業育成 を挙げられた。最後に経済産業省による日本の半導体産業復活戦略を紹介されるとともに、政府が提唱する未来社会Society 5.0実現に向けて最先端の半導体は必要不可欠であり、それを作り上げていける日本でありたいと思っている、と述べられた。



「2025年に向けた世界経済展望」
(株)三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室長
永井 敬彦氏

経済見通しとして、世界経済はインフレ鎮静化と所得改善の流れが維持され、金融緩和継続を支えに成長軌道へ、日本は賃上げ定着と段階的な金融正常化により、金利のある世界でのデフレ脱却に前進。但し、米国新政権を巡る不確実性は高く、想定を超える政策転換に起因するリスクには要注意である、とされた。続いて見通しのキーポイントとして、選挙イヤーであった2024年の主要選挙の結果や日本の新政権の政策、そして最も注目される米国新政権の政策等について詳細に解説された。加えて日本・米国・ユーロ圏・中国等、国や経済圏別の解説も行われ、世界経済について知見を深めることができた。



本当の幸せは、
ゆっくりつくる。

HORIN
鳳 麟

飲酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与える恐れがあります。飲酒運転は絶対にやめましょう。

月桂冠株式会社

京都中央信用金庫にグループ会社があることをご存知ですか？

京都中央信用金庫グループ会社

- 京都中央信用金庫
 - 預貸金・為替業務
 - 本業支援
 - 資産形成支援
- 中信ベンチャーキャピタル(株)
 - バンチャー企業への投資
 - 投資企業への経営助言
- 中信ビジネスサービス(株)
 - 人材紹介
 - バンフレットチラシ作成
 - オフィスの備品・ビジネス機器
 - 建物管理
- 中信総合サービス(株)
 - 集金代行
 - 現金整理精査
 - 警備保全
 - 貨物運送
 - 機密文書溶解
- 中信ローン保証(株)
 - 住宅金融保証
- 中信リース&カード(株)
 - リース
 - クレジットカード
- 中信コンピューター&コミュニケーション(株)
 - システム開発
 - (生産管理、販売管理、勤怠管理)
 - ホームページ制作
 - システムコンサルティング
- 京都アンプリテュード(株)
 - 伝統的素材・技術を用いた内装のプロデュース (内装用建材、インテリア)

地域のお客様が抱えている課題の解決サポート並びにサステナブルな社会の実現に向けて、京都中央信用金庫グループを是非ご利用ください！

On Your Side 京都中央信用金庫

シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その⑦

今回も引き続き、職場の魅力向上に努めておられる会員の状況をご紹介します。

第7回は株式会社京都科学を訪問して、お話を伺いました。

(取材日：令和6年12月3日)

株式会社京都科学

設立：1948年 資本金：8,000万円
社員：115名 住所：京都市伏見区北寝小屋町15番地

お話を伺った皆様

専務取締役経営管理本部長 寺井常彦氏
総務部 部長 山田恭弘氏
同 総務課係長 笹部義之氏
同 総務課 重藤真美氏
製造一部製造一課係長 榎 浩稔氏



▲笹部係長(左)と重藤氏

▲寺井専務取締役(左)と山田部長

会社概要

当社は島津製作所標本部の事業を継承して、1948年に創業しました。当時は人体解剖模型をはじめ生物・地学に関する数多くの学習教材の提供を通して、理科教育の普及・振興に寄与してまいりました。高度経済成長期には、文化財の複製、保存、修復、文化施設の展示メディアの総合プロデュースなど事業を拡げ、現在は医療・看護現場で必要とされる手技をトレーニングする医療・看護教育用シミュレータの国内トップメーカーです。現実に近い状態でトレーニングが出来るよう、人体に限りなく近いリアルなモノづくりを心掛けています。

人事制度

▽嘱託社員への登用

パート従業員（以下、パートと記載）の入社が多かった時代、パートで30歳までの方を対象にいずれ正社員として登用するための準社員制度を設けました。しかし最近では対象となるパートが減ってきたため、3年前に年齢問わずにパートを嘱託社員として登用する制度を新設しました。この制度を利用しパートから嘱託社員になった方は既に約20名にのぼります。

▽時間単位年休制度

年次有給休暇の取得率は高いほうだと思うのですが、通院、役所への届け出、子供の学校行事への参加など、導入希望の多かった時間単位の年次有給休暇制度を2023年6月から導入いたしました。付与日数の少ない社員や子育て世代の社員からは好評で、導入後年次有給休暇の取得率はさらに高まりました。

▽定年制度

昭和57年に60歳定年制度を設けました。当時の定年年齢は55歳が主流で、昭和61年に高年齢者雇用安定法が改正され「60歳定年が企業の努力義務」になる4年前のことです。また、定年後5年間（65歳まで）は、本人の希望があれば60歳時点の給与の7割で再雇用するという、時代を大きく先取りした制度をセットで44年前に設けていたこととなります。その後、再雇用制度は国からの給付金や年金との組み合わせ、個人の働き方（時短勤務の希望）を加味し、時代に即して形を変えてきました。現在は70歳までの雇用を目指して、65歳以降の雇用を試験的に運用しています。

子育て支援

仕事と育児の両立支援の特徴的な取組は、小学校卒業まで希望によって時短が出来るように運用していることです。育児休業規程では時短勤務ができるのは子が3歳になるまでとしていますが、3歳になってもフルタイムに戻ることが難しい従業員がいたため、はじめは特例的に対応していました。しかし、その後も同じように「小1の壁」などで仕事と育児の両立に悩む従業員がおりましたので、各人の子育て状況を考慮し、本人がフルタイムで働けると申告されるまで時短を認めています。

その他、最近は男性従業員の育児休業取得も増えてきました。2週間～1ヶ月程度の期間が多いですが、法的にも最大4回に分けてとれるようになりましたので、複数回の取得も増えてきています。

福利厚生

▽疾病入院医療保険

日常生活で発病した病気による入院を補償する保険に会社負担で加入しています。以前は労働、通勤災害による死亡または障害が残った場合に通常の労災保険に上乗せされる保険でしたが、疾病入院の医療費を負担する特約を追加しました。癌などの疾病で入院した場合、医療費で金銭的に高額な自己負担が発生します。差額ベッド代や食事療養費等医療費の大半をカバーできる保険となっているため、この制度導入は社員からも好評です。この保険には健康、医療、介護に関する電話相談、メンタルケアカウンセリングサービス、生活習慣病サポートサービス、がん治療と仕事の両立支援サービス、体の健康チェックの電話サービスも付加されています。

また、がん治療の場合、退院後も長期にわたり通院治療することが多く、経済的にも負担が大きいとの声を聞き、昨年からがん治療と仕事の両立支援策として、がん治療を目的とした通院も保険でカバーするようにしました。

▽健康診断

人間ドックは35歳以上の正社員を対象にしていたのですが、2年前からはその対象をパートにも広げました。人間ドックの受診料は、会社の全額負担で実施しています。また、女子従業員の比率が高いので、子宮頸癌と乳癌検診のオプションも希望すれば会社負担で受診できるようになっています。これは、癌に罹患した従業員が発生した事例があったため、早期発見で大事に至らないことは、従業員本人はもちろんのこと、会社にとっても大切なことと考えたためです。

【榊さん】

入社15年目になります。入社の一きっかけは、元々、大学で美術を専攻しておりモノづくりに興味があったので、求人情報を見て、人体模型の製造は面白そうだなと思ったからです。



19年前にアルバイトで働き始めてから4年後、アルバイトやパートから準社員になれる制度が設けられ、そのタイミングで準社員として採用されました。そして、その2年後に正社員に転換されました。

アルバイト時代は、一貫して模型を成形するモノづくりを担当していました。準社員になってからは、成形のほかに、スケジュール管理や書類作成の仕事もしましたが、モノづくり業務のウエイトはあまり減っていませんでした。正社員になると、管理的な業務もありますが、モノづくり業務はそれまでの成形から樹脂型を作る仕事にシフトしました。樹脂型は模型づくりの大元なので、当社にとって非常に重要な仕事だと思います。

最近、特注品や開発的なことを手掛けると自分のスキルが上がってきたことを実感します。今は3Dプリンターを使って自分の想像した物を形にするところに、やりがいや面白みを感じています。また材料の選定では、表面の皮膚の硬さをどうするかなど、色々と考えながら作ることができます。その辺りは医師や看護師等と打ち合わせながら進めていくのですが、私の提案を取り入れてもらえる嬉しく、そのためにも頑張っています。当社の事業は医療と関連した仕事であり、私たちが作った製品が役立って喜ばれる方、助かる方がいるということにも働きがいを感じています。

私のいる成形のグループには現在8人が所属していますが、例えば体調の問題で急に休暇や時間休を取る方があった場合も皆で上手くフォローし合いながら和気あいあいとした雰囲気の中で働いており、とても働きやすい職場だと感じています。

インタビューにご協力いただいた株式会社京都科学の皆様、誠にありがとうございました。

K.I.G

ゴルフ同好会 (KIG) だより

▶令和6年度第3回例会（第247回例会）結果
 と き：令和6年11月26日（火）
 ところ：京都ゴルフ倶楽部 上賀茂コース
 参加者：22名（内 シニア8名）

優勝 和田 均氏 (株ワダ)
 準優勝 澤田 宗利氏 (株パックス・サワダ)
 3位 石川 勝之氏 (オリオン株)
 B G 賞 和田 均氏 (株ワダ)

訃報



小林 祥一氏

(日本電気化学(株) 名誉会長)

昭和59年5月～平成10年5月
 本会理事
 平成10年5月～平成16年5月
 本会副会長
 平成16年5月～平成18年5月
 本会常任理事

令和7年1月10日、ご逝去されました。
 (享年93歳)

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

金融支援

資金調達の悩みを
保証制度で
解決いたします。

公的保証人支援等

創業支援

「チャレンジ」
創業バリエーションサポート

女性創業支援等

あなたの企業を元気にする仕組みです。

事業承継

中小企業・小規模事業者の
円滑な事業承継を
支援します。

専門相談室

海外展開

海外展開する
中小企業を
応援します。

サブリース等

あなたの企業の一員に
京都信用保証協会

京都信用保証協会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

〒600-8009 京都市下京区東通町入道山崎町5番地 京都市センター5階
TEL: 075-354-1011
〒611-0033 宇治市久保町上ノ山37番地の3
TEL: 0774-43-8822
〒621-0052 亀岡市千代川町千原2丁目6番11号
TEL: 0771-22-1041
〒620-0004 福知山市石田2丁目4番地
TEL: 0773-27-6156
〒629-2503 京丹後市大宮町高野222番地3
TEL: 0772-68-0601

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

<https://kyosinpo.or.jp/>
詳しくはコチラ 京都信用保証協会

新入会員ご紹介

(12月4日、第347回理事会で承認されました。)

正会員 カンケンテクノ(株)

社長 今村 浩一
〒617-0833 長岡京市神足太田30-2
TEL.075-955-8823 FAX.075-955-8910
大気環境保全装置メーカー

賛助会員 キョーラク(株)

社長 長瀬 孝充
〒541-0048 大阪市中央区瓦町2-3-10
TEL.06-6203-1301 FAX.06-6203-1309
プラスチック製品の製造・加工並びに販売

特別会員 西村証券(株)

社長 西村 永良
〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町65
TEL.075-221-9383 FAX.075-221-9384
金融商品取引業

令和6年度京都府産業功労者表彰 ご表彰

TOWA(株) 社長 岡田 博和氏
(株)京都科学 相談役 片山 保氏

令和6年度 京都中小企業技術顕彰 優秀技術賞 ご受賞

京都機械工具(株) (社長 田中 滋氏)
コフロック(株) (社長 小島 望氏)
中嶋金属(株) (社長 中嶋 哲也氏)

会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。

M&Aのご相談は...

京都銀行へ

京都銀行では、企業の成長戦略や事業承継などに対する課題解決のサポートなど、お客さまのニーズに合わせてM&Aに関する最適なアドバイスをさせていただきます。



M&A
詳細ページは
こちら



飾らない銀行

京都銀行



お金の管理・各種手続きも オンライン相談も

てのひらが窓口に!

京都信用金庫アプリ

てのひら京信



詳細はこちら

コミュニティ・バンク京信

京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地 TEL(075)-211-2111
「コミュニティ・バンク京信」は、京都信用金庫のブランドネームです。

京都工業会 ニュース No.421

2025年1月22日発行
発行 公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター 6階

TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065
URL : http://www.kyokogyo.or.jp
E-mail : info@kyokogyo.or.jp

